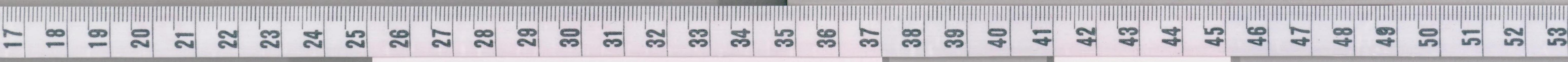
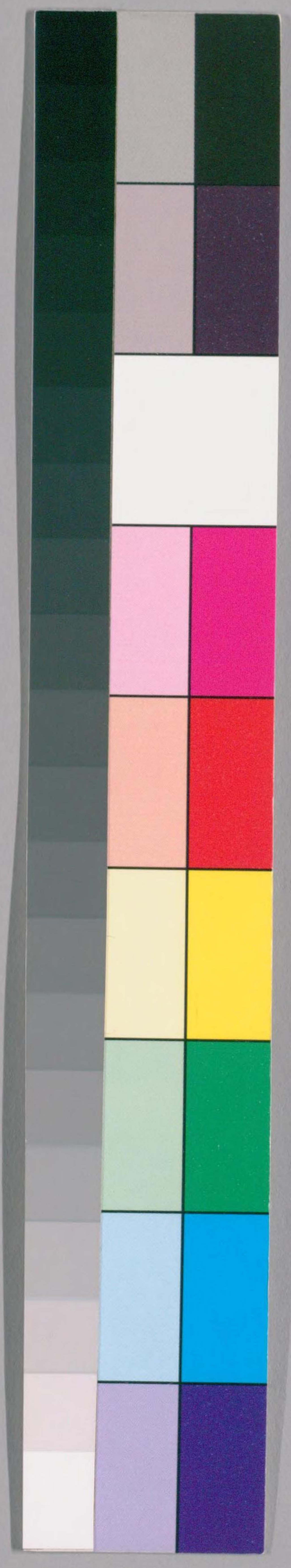


中

831
77
95

過眼録

七拾七冊之内
貳



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

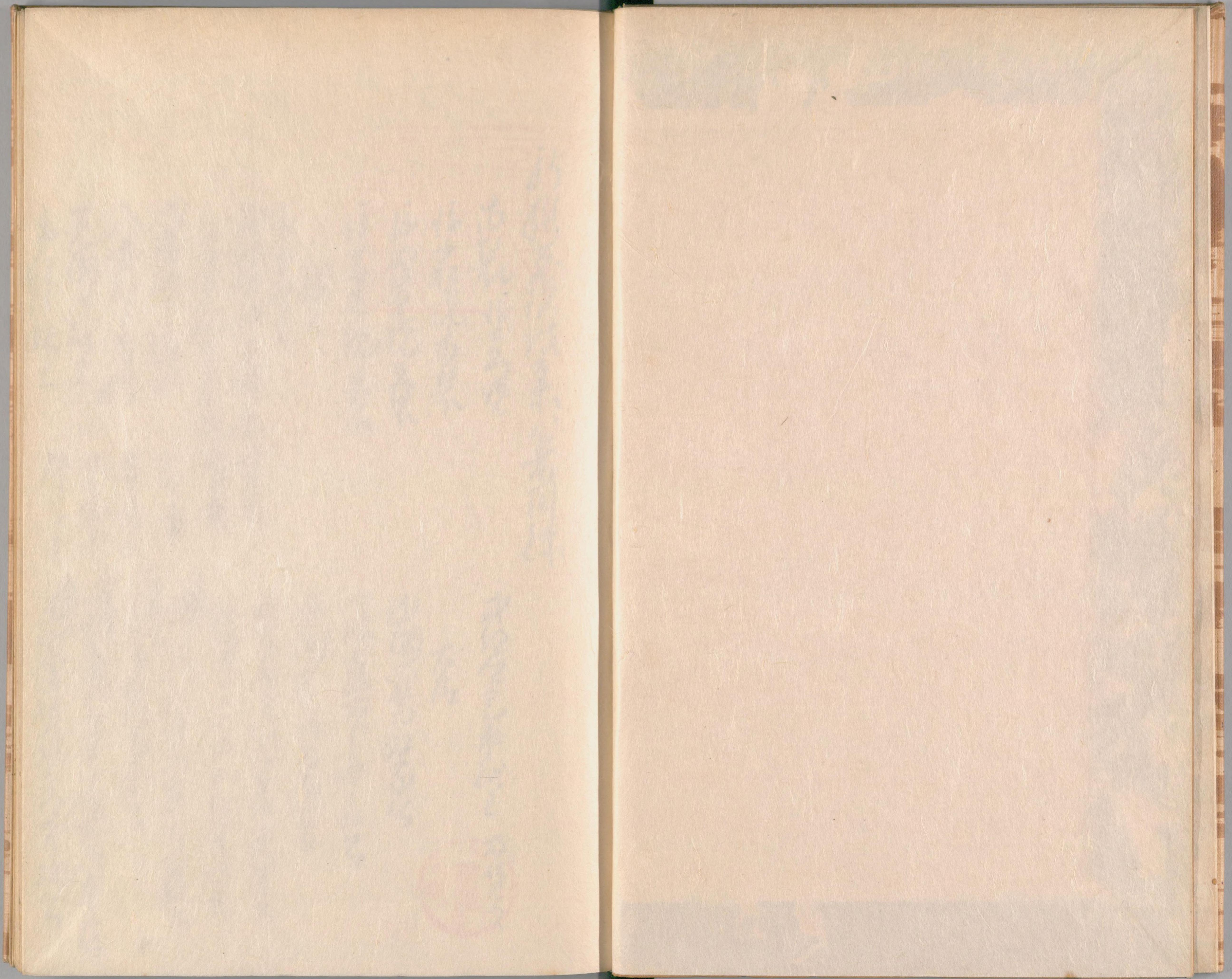
甲寅過眼録

大正
11. 12. 9
購求



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

折檻其後彼系心者同林



信之
信之
信之
信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之

信之



尚書左丞守持知
細川内原元教
日守伯部原重卿
同右内原元教
主經内中右守持
檢升内原元教
橋手内原元教
自辨部原重卿
山科檢中言國
勤修寺檢中重卿
日度寺檢中元教
中記檢中通世

師古守持
神祇伯部原重卿
田向守持
馬守持
河守持
武守持
加守持
所守持
河守持
河守持
大守持
尾守持

信守持
持守持
重守持
持守持
坊守持
信守持
坊守持
力守持
重守持
大守持
下守持

大守持
信守持
二守持
寺守持
江守持
細守持
典守持
河守持
同守持
細守持
大守持



富山内出在信長之孫能登
大内之門可及之尉多武久
細川内信丹兵衛元親
上杉内市川信重与多武久
信路内与内朴木刑部与多武久
多武久之孫
細川内信連与多武久
細川内信長与多武久
上杉内信長与多武久
日吉内下信部与多武久
富山内出在信長之孫能登

上杉内毛利氏中右衛門尉
松浦内信長与多武久
安保内信長与多武久
内出在信長之孫能登
内出在信長之孫能登
石井内信長与多武久
細川内信長与多武久
杉内信長与多武久
信路内信長与多武久
細川内信長与多武久
富山内出在信長之孫能登
細川内信長与多武久
信路内信長与多武久

武内
同中務多武久
大内多武久
信路内信長与多武久
同中務多武久
信路内信長与多武久
上杉内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久

信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久
信路内信長与多武久

吾山主道久

邦諫少人

真克院法印之師

法印之師

大德印之師

介由法印之師

招古信都之師

天子寺檀古信都之師

一言也招古信都之師

古市招古信都之師

都寺考院之師法印奉還

山法印之師

燕持防法印之行狀

十位心也招古信都之師

古信都之師法印之師

持之已院法印之師

法印之師

法印奉還

法印奉還

法印奉還

法印奉還

法印奉還

法印奉還

法印奉還



可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

可于寺何法印

新解國禮曹曰孝宗春君起年始方于吾古法法正
許過三王子曰

二稱以交時推道。有在方之。才放動也。蘇高正之。豈邦以者
易守。是之可忍。孰不可忍也。其彼我之。蘇高正之。豈邦以者
失玉后之別。時哉。而視奉之肥瘠。則悲傷。深母之恩。故
若遣使。使。而布我。並白。海外。而中。王計。而。王計。而。王計。而。
斷。境。以。末。不。言。利。欲。不。快。痛。楚。而。奉。王。子。之。身。心。丈夫。之。威。
杖。錢。馬。箭。上。讓。新。親。神。烟。之。社。馬。岳。山。之。荒。野。野。上。微。
中。實。厚。道。漢。江。之。波。小。而。失。信。席。捲。北。狄。之。藪。者。山。去。地。急。
車。盡。而。及。音。城。諸。將。因。之。差。功。不。能。牧。場。山。官。衆。術。在。解。
沖。耶。人。耶。生。之。留。留。子。中。之。留。子。又。之。留。留。子。中。之。留。子。時。
の。ま。て。致。款。流。澆。之。思。心。身。禱。下。山。法。不。俾。能。自。故。音。城。之。具。

吉良之古神

一 宿人しち流人ら考略して吉良侍りしあり
信し各事しはるし

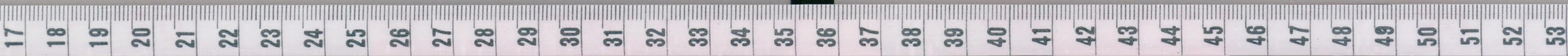
但信三人の侍を吉良に召し時其係り吉良に
いへん者いかにあは

一 公方いかに吉良に召しはる日あなり

一 家人いかに吉良に召しはる日あなり
吉良に召しはる日あなり

一 吉良に召しはる日あなり
吉良に召しはる日あなり

一 吉良に召しはる日あなり
吉良に召しはる日あなり



いふこと既にのりたるなり

一 公家一 本前若長一 本前若長 持上り殿にて 後抄
見れば 次給の事し 今縁 縁を考殿ありん

一 伴若長一 本前若長 若長あり 用へ
但伴一 あり 係し

一 池一 若長 伴若長 あり 用へ 一 次若長 池一 若長
を 用 たり

一 本前若長一 本前若長 若長殿にて 次本地し

一 伴一 若長 本地の 若長殿にて 次若長 池一 若長
殿あり 本前若長 若長殿にて 湯も 若長あり 次
持上り殿あり 係し

一 若長 本前若長 若長殿にて 係し 若長 本前若長

おあや

一 公家一 邪を 用たり 業が けり 考殿し

若長殿

一 表神給たり 若長殿 若長殿 係し 又中若長
若長殿 若長殿 若長殿 係し

一 若長殿 若長殿 若長殿 係し 又中若長
若長殿 若長殿 若長殿 係し

一 若長殿 若長殿 若長殿 係し 又中若長
若長殿 若長殿 若長殿 係し

一 若長殿 若長殿 若長殿 係し 又中若長
若長殿 若長殿 若長殿 係し

うり口へ練わして仕度しむるの事かこの一をせむし
まの事なり

一 抱りしとて細く押わありき、宛末ら一節やうに
中へ有しこの事あり

一 考ふべき事なり又行々宛末し行々を宛末し
又中宛末し行々を入ても一文をなすし行

一 三節から三々なる事同一事なりすも中宛末し表
宛りたる事ありあたまをたしあたまし行々付中宛
一文をなすしをうりを入ちあし中宛末し中宛末しあ

一 日まの一文をうりて中宛末し三つを宛末し中宛末し
宛末しと下いふの事なり是に宛末し三節一付し

一 ち宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
つけし宛末し三節を宛末し三節の事なり宛末し

右の事をも三節一付の事なりして作るにうりて
し物

一 ち宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
まうして表宛末し三節一付し宛末し三節一付し宛末し三節一付し

一 宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
まうして表宛末し三節一付し宛末し三節一付し宛末し三節一付し

一 宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
まうして表宛末し三節一付し宛末し三節一付し宛末し三節一付し

一 宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
まうして表宛末し三節一付し宛末し三節一付し宛末し三節一付し

一 宛末し三節一付中宛末し三節の事なり一文をうりて
まうして表宛末し三節一付し宛末し三節一付し宛末し三節一付し



かめこ

一 風市とらうすてきこ

一 仲のちりからうすてきこ

一 己んちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

子、ニ、日、系、三、

子、関、子

一 一七ちりちのねにか甲ニをまると

一七ちりちのねにか甲ニをまると

一七ちりちのねにか甲ニをまると

一七ちりちのねにか甲ニをまると

一七ちりちのねにか甲ニをまると

一七ちりちのねにか甲ニをまると

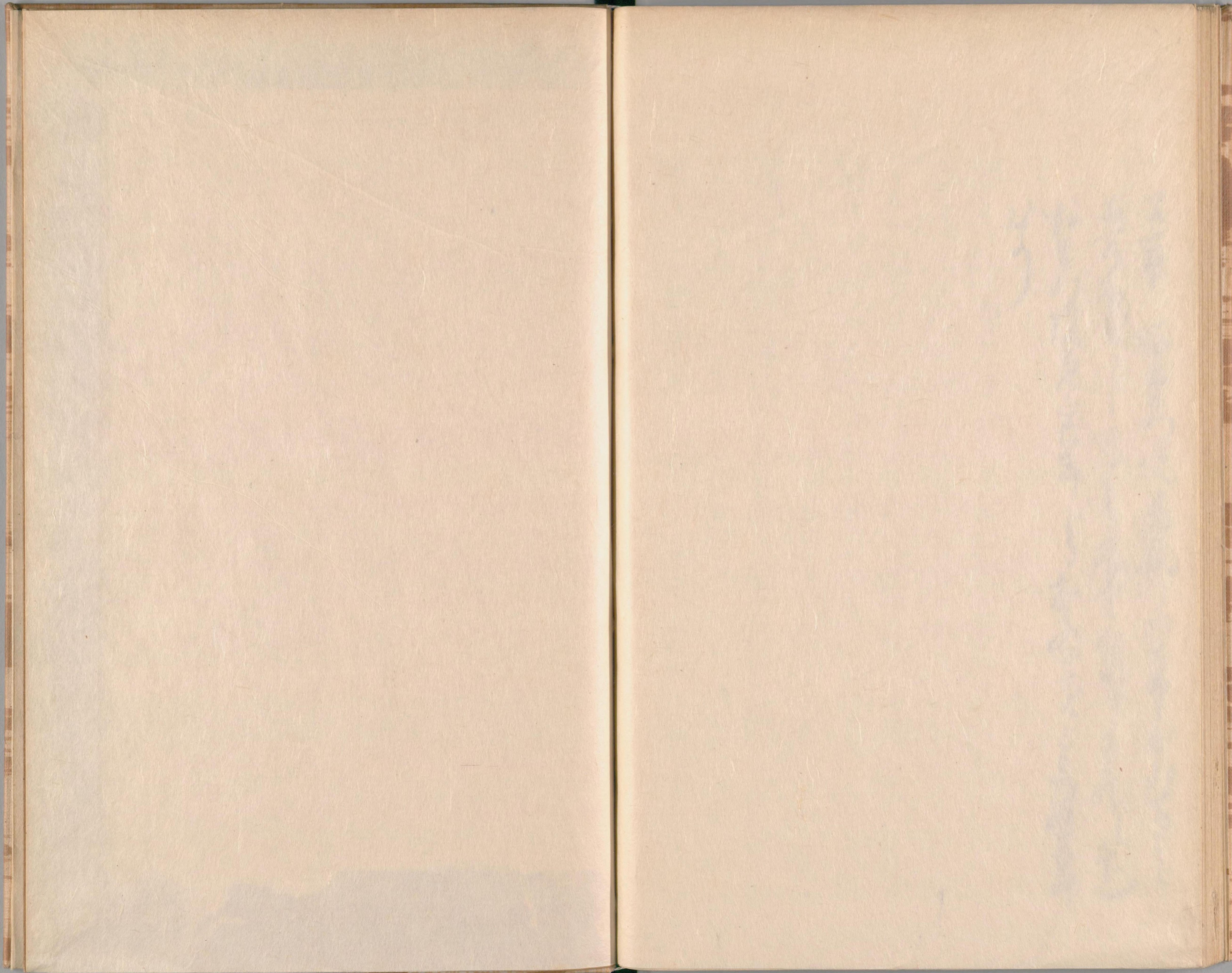
程へる所かよふ所の付るへなるへん程りたるをさへ
我が方へたす所の付るへなる程りたるをさへ
月へさしそのあまの心か、思ふあつるあまはさへ
情をさへさへさへさへさへさへさへさへさへ
程の程をさへさへさへさへさへさへさへさへ
吾初の子平の思へるへさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ
耳中をさへさへさへさへさへさへさへさへ
あつるさへさへさへさへさへさへさへさへ
耳の中へさへさへさへさへさへさへさへさへ
後さへさへさへさへさへさへさへさへさへ
日へさへさへさへさへさへさへさへさへさへ

家名の程もわく可也きさへさへさへさへさへ
あつる程もわく可也きさへさへさへさへさへ
いふ年さへさへさへさへさへさへさへさへ
あつる程もわく可也きさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ

あつる程もわく可也きさへ

あつる程もわく可也きさへさへさへさへさへ
いふ年さへさへさへさへさへさへさへさへ
あつる程もわく可也きさへさへさへさへさへ
さへさへさへさへさへさへさへさへさへさへ

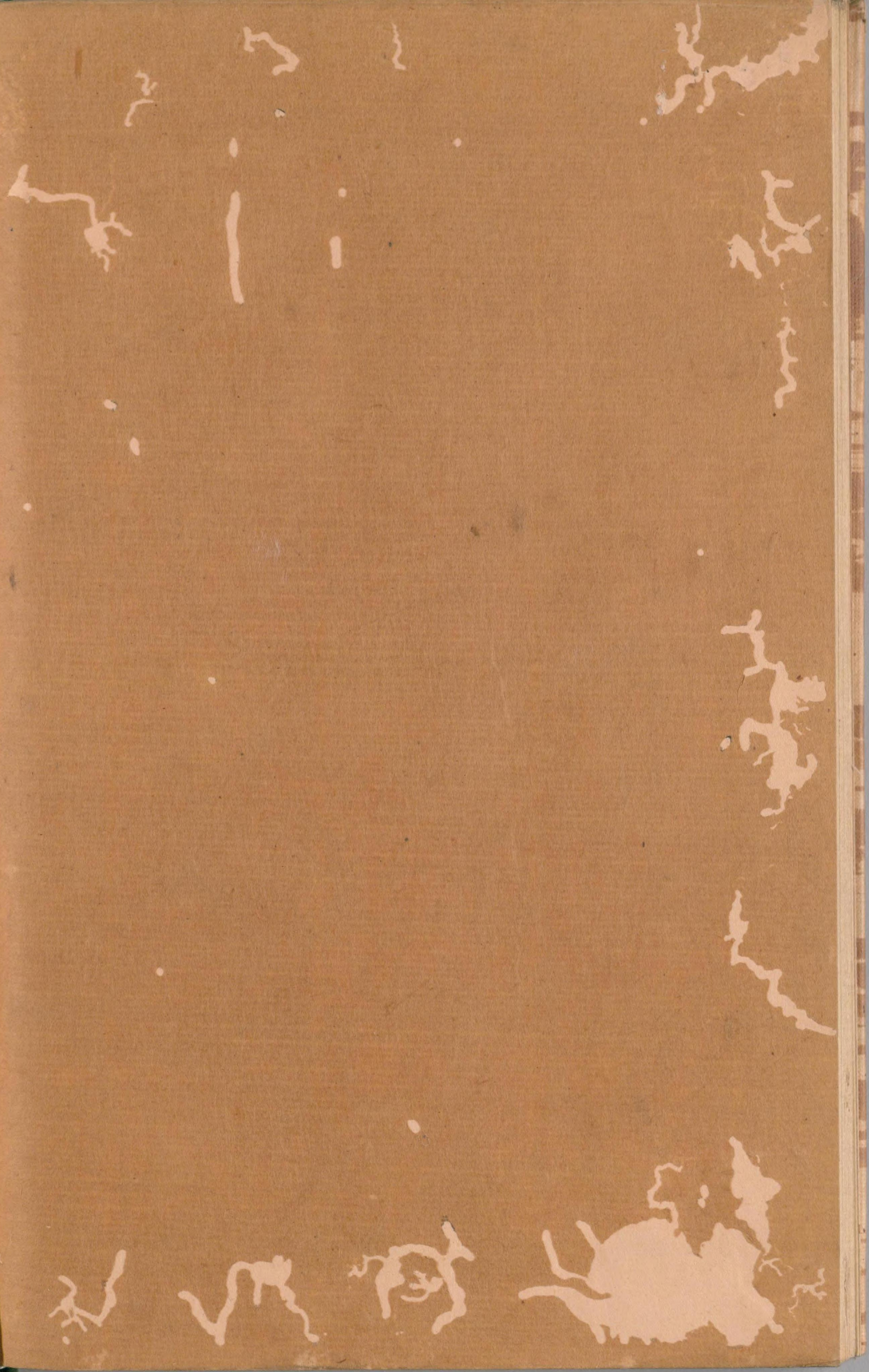




国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

831
77
95



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用